

文化創造基礎（英語）	担当教員	単位数	授業形態
	樋田 光代	2	e-Learning

I はじめに

近年、日本社会では外国人労働者の増加により、英語は単なる教科としての知識ではなく、目を見て理解し合えるコミュニケーション言語としての重要性が高まっています。自動翻訳機を介したやりとりでは伝えきれない「気持ち」や「意図」を、自分の言葉で届ける力が求められる時代です。

本講義では、英語を「伝える力」として捉え直し、理論的な理解を通じて、自分自身の学び方や姿勢を見つめ直す機会となります。英語学習に対する苦手意識やモチベーションの揺らぎも、理論を通じて「納得」することで、次の一歩につながるヒントを得ることができます。

II 授業の目的・ねらい

本科目では、英語学習に関する理論的背景を理解するとともに、第二言語習得論、動機付け、学習方略、アウトプットの役割など、言語教育における基本的なテーマを体系的に学びます。あわせて、現代社会における英語の役割や、学習者の個性に応じた学びの在り方について考察し、自律的な学習者としての姿勢を育てていきます

III 授業の教育目標

英語学習に関する理論的枠組みを理解し、第二言語習得論、動機付け、学習方略、インプット・アウトプット仮説などの基本概念を体系的に習得します。また、英語学習者としての自己理解を深め、学習スタイルや認知プロセス、動機付けの変化を分析する力を養います。さらに、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の4技能を支える語彙・文法・音声・文字などの要素についても理解を深め、理論と実践を結びつけた学習方法を構築できるようになることを目指します。

第1講 英語学習の目的

1. 何を学ぶか

これまでの英語学習経験を振り返りながら、英語を学ぶ目的や意義について再確認する。特に、英語が単なる教養科目から、国際的なコミュニケーション手段としての実用的な役割へと変化してきた背景を理解する。また、第二言語としての英語と第二外国語としての英語の違いを整理し、現代社会における英語学習の目的や価値について、経済的・文化的観点から考察する。

2. 学習到達目標

- (1) 英語学習経験を整理し、その効果を説明できる
- (2) 英語を学ぶ意義をコミュニケーションの観点から説明できる

3. 研究課題

- (1) 今までの英語学習経験とその効果についてグループで考察
- (2) 第二言語と第二外国語の定義について調査

第2講 社会で求められている英語力

1. 何を学ぶか

現代社会において英語が果たす役割を、言語人口や外国人労働者の増加といった社会的背景から理解する。さらに、企業や国の英語教育への取り組みを通じて、英語力が求められる理由とその具体的な目標について考察する。

2. 学習到達目標

- (1) 言語人口や外国人の数をもとに言語の役割を説明できる
- (2) 国の英語教育政策について例を挙げて説明できる

3. 研究課題

- (1) 外国人労働者の割合について調査し交流
- (2) 「英語が使える日本人」の育成方針を整理

第3講 第二言語習得論

1. 何を学ぶか

第二言語習得論の基本的な理論を学び、日本人が英語を学ぶ際に直面する困難や言語間の距離について理解する。対照分析仮説や中間言語の概念を通じて、言語習得の過程を理論的に捉える力を養う。

2. 学習到達目標

- (1) 対照分析仮説をもとに、日本人が外国語を学ぶ難しさを説明できる
- (2) 中間言語の役割を説明できる

3. 研究課題

- (1) 日本の英語力をアジア圏と比較
- (2) 目的言語のアウトプットまでに起こるプロセスを話し合う

第4講 第二言語の認知プロセス

1. 何を学ぶか

第二言語習得における認知プロセスの4段階を理解し、音声認識や記憶力などの要因が学習成果に与える影響について考察する。自分自身の学習傾向を分析し、より効果的な学習方法を模索する。

2. 学習到達目標

- (1) 第二言語習得の4つのプロセスを説明できる
- (2) 学習成果に影響する要因を例を挙げて説明できる

3. 研究課題

- (1) インプットとアウトプットの具体例を話し合う
- (2) 自己の認知プロセスの傾向をまとめる

第5講 インプット仮説

1. 何を学ぶか

Krashen のインプット仮説を中心に、言語習得における「大量のインプット」の重要性を学ぶ。日本の学習環境においてインプット仮説をどのように応用できるかを検討し、学習効果の向上を目指す。

2. 学習到達目標

- (1) Krashen のインプット仮説を説明できる
- (2) 日本の環境での応用効果を説明できる

3. 研究課題

- (1) インプット量の調査と比較
- (2) インプット量を増やす方法を交流

第6講 アウトプットの役割

1. 何を学ぶか

Swain のアウトプット仮説を通じて、言語習得におけるアウトプットの役割とその重要性を理解する。アウトプットが仮説検証の場となることを学び、言語処理の自動化との関係性について考える。

2. 学習到達目標

- (1) アウトプットの定義を説明できる
- (2) 仮説検証としての役割を説明できる

3. 研究課題

カナダの研究結果と日本人への効果を整理

第7講 アウトプットの質の向上

1. 何を学ぶか

言語の化石化 (fossilization) という現象を具体例から学び、アウトプットの質を高めることが英語習得にどのような影響を与えるかを理解する。自らの学習経験を振り返り、改善の方向性を探る。

2. 学習到達目標

- (1) 言語の化石化を具体例で説明できる
- (2) アウトプットの効果を説明できる

3. 研究課題

- (1) リスニング・リーディング偏重の懸念を議論
- (2) アウトプットによるフィードバック経験を交流

第8講 動機付け

1. 何を学ぶか

英語学習における動機付けの変化を、自分の経験をもとに分析する。外発的動機付けの特徴を理解し、継続的な学習を支える要因について考察することで、学習意欲の維持方法を探る。

2. 学習到達目標

- (1) 外発的動機付けを自分の経験から説明できる
- (2) 動機付けの変化を説明できる

3. 研究課題

- (1) 「天才」の要因（努力か才能か）を議論
- (2) 継続的動機付けに必要な要素をまとめる

第9講 道具的動機付けと総合的動機付け

1. 何を学ぶか

道具的動機付けと総合的動機付けの違いを理解し、学習環境や周囲の影響が動機付けに与える効果について考える。動機づけの伝染という現象を通じて、学習者同士の関係性の重要性を学ぶ。

2. 学習到達目標

- (1) 動機付けを高める方法の効果を説明できる
- (2) 動機づけの伝染について説明できる

3. 研究課題

- (1) 道具的動機付けの例を比較
- (2) 英語学習の動機を出し合い、重要度を評価

第10講 学習の動機付けとGRIT

1. 何を学ぶか

GRIT（やり抜く力）の概念を学び、英語学習においてGRITがどのように関与するかを具体的な場面から理解する。自己評価を通じて、自分の学習姿勢を見直し、継続的な努力の意義を考える。

2. 学習到達目標

- (1) GRIT を具体例で説明できる
- (2) 英語学習における GRIT の関わりを説明できる

3. 研究課題

- (1) GRIT スケールで自己評価
- (2) 企業採用で GRIT が重視される理由を議論

第 11 講 習得のための学習方略

1. 何を学ぶか

短期記憶と長期記憶の違いを理解し、記憶の定着に効果的な学習方略について学ぶ。特に「リハーサル」や関連付けによる記憶強化の方法を通じて、語彙や表現の習得を効率化する。

2. 学習到達目標

- (1) 長期記憶と短期記憶を説明できる
- (2) リハーサルの効果を説明できる

3. 研究課題

- (1) 「マジカルナンバー」について議論
- (2) 関連付けた記憶とそうでない場合の比較

第 12 講 効果的な英語学習法

1. 何を学ぶか

英単語の記憶方法を直接方略と間接方略に分類し、それぞれの特徴と効果を理解する。さらに、メタ認知を育てる学習方法を検討し、自己の学習プロセスを客観的に捉える力を養う。

2. 学習到達目標

- (1) 英単語記憶法を方略に分類して説明できる
- (2) メタ認知を育てる方法を考えまとめる

3. 研究課題

- (1) 英単語の記憶法と効果的方略を議論
- (2) 方略を直接・間接に分類して整理

第 13 講 メタ認知トレーニングと英語学習

1. 何を学ぶか

メタ認知トレーニングの3つのプロセス（プランニング・モニタリング・評価）を第二言語習得のステップに当てはめて理解する。自律した学習者としての姿勢を明確にし、学習の質を高める。

2. 学習到達目標

- (1) メタ認知トレーニングのプロセスを習得ステップに当てはめて説明できる
- (2) 自律した学習者像を説明できる

3. 研究課題

- (1) スピーキングメタ認知トレーニングを実施・評価
- (2) 自律した学習者の姿を議論

第14講 解釈の違い

1. 何を学ぶか

英語学習スタイルの多様性を理解し、個人差が学習方法に与える影響について考察する。単語学習の方法と性格の関係性を通じて、自分に合った学習法を見つける手がかりを得る。

2. 学習到達目標

- (1) 学習スタイルの違いを説明できる
- (2) 単語学習法の効果を理由と共に説明できる

3. 研究課題

- (1) 見え方の違いを体感し、個人差を考察
- (2) 単語の覚え方を交流しまとめる

第15講 個性に合った学びのあり方

1. 何を学ぶか

学習者の個性に応じた英語学習の方法を実践的に検討し、それぞれの効果を比較・分析する。第二言語習得に影響を与える学習者要因を理解し、今後の学習目標を明確に設定する。

2. 学習到達目標

- (1) 学習方法の効果を説明できる
- (2) 自分に関わる学習者要因を説明できる

3. 研究課題

- (1) 長文読解の方法を提案
- (2) 自分に合った学習法と今後の目標をまとめる

IV レポート課題

課題 1	自身の英語学習経験を振り返り、第二言語習得理論と照らし合わせて分析すること。
課題 2	メタ認知的学習方略を用いた英語学習計画を立て、実践と評価を行うこと。

V アドバイス

課題 1 解説	過去の学習経験を単なる振り返りではなく、理論と結びつけて分析することが重要です。
課題 2 解説	メタ認知トレーニングの3つのプロセス（プランニング・モニタリング・評価）を意識して取り組むと効果的です。

VI 科目修得試験：レポート試験

授業で扱った理論と実践をもとに、英語学習に関する課題に対して論理的に考察したレポートを提出する。

VII テキスト

『Read on, Think on』（三修社）

VIII 参考文献

『プレゼンの英語フレーズ』等